

FISHIN'GRAPH

フィッシンググラフ～見て感じて楽しむ沖釣りライフ

⑱ タチウオどころ熊本県

～テンヤの本場でバイブレーション～



上天草
有明海

熊本はテンヤタチウオの本場のひとつ。最大指幅8本級まで釣れる

◎とみどころ じゅん シマノインストラクター。ティップエギング、メタルスッテゲーム、ライトヤリイカのほかタチウオなど、船のライトゲーム、「楽しむ釣り」の最先端に行く。



◀ 郷に入っては郷に従う心構えで釣り始める

九州・熊本県は釣り人と遊漁船が非常に多い、船釣り大国といえる場所。なかでもタチウオはマダイと並ぶ人気魚で、ここ3年ほどは周年の釣りとして盛り上がりつつある。

「驚きました。東京湾みたいな船団ですね。この風景はすごい」

夜明けの有明海。島原半島と雲仙を眼前に望む通詞島沖を見回して関心する富所潤さん。休日は100隻近くの遊漁船と職漁船が集まるといいう。

「どうぞ。水深は113メートルです。底とやや上にも反応が出ています」

ベテラン女性船長・山下二美船長のアナウンスで釣り開始。

「初めての釣り場ですので、まずは様子を見ながら1本釣りたいですね」

富所さんはサーベルマスター船テンヤ50号紫ゼブラ夜光に、船で用意されているコノシロを装餌。海底に送り込むとまずはワンピッチジャーク&ステイ。フォースマスター200はハンドル1回転あたり66センチ、スピーディーにリサーチする。

続いては海底周辺と宙層に分かれている反応に通すように速度6の微速巻き。同船者が1本、2本とタチウオを上げるのを見て、富所さんはテンヤはそのままエサを中羽イワシに変えるも、タチウオからのシグナルは遠い。

ここで富所さんは「バイブレーション」を試す。すると、タチウオが反応し始めた。



東京湾のような船団になる



▲上天草は遊漁を観光・地域振興に積極的に活用している



▲八代海から有明海へ慎重に船を進める橋山下二美船長

【サーベルマスターXR テンヤ】
 ●ブレズ、軽快で、高感度。穂先にはハイパワーXソリッドとタフテックを、ブランクスにはスパイラルXコア、手元には疲労を軽減するXシートエクストリームガングリップ。そして軽量高感度のカーボンモノコックグリップを採用。シマノのロッドテクノロジーを惜しむことなく注ぎ込んだハイスペック2ピースロッド。ベーシックな82MH、攻めの91H、喰い込ませる73はML、M、MHの計5アイテム。



▲エサはコノシロとイワシが用意されている
 ▲サーベルマスター船テンヤ(右)とサーベルマスター船テンヤβ(左)。さまざまなカラーにヒットしていた



▲手感度を向上させるカーボンモノコックグリップ



▲一日の疲労感がまったく違う。一度使ったら手放せないXシートエクストリームガングリップ



▲センターカット2ピースは携行性のよさも特徴



【フォースマスター200】
 ●水深100メートル以上を狙うことの多い熊本では電動リールが主力。その中にあって手巻きリール並みのパーミング性と軽さのフォースマスター200はさまざまな誘いを軽快に入れることが可能。コンパクトさは大きなイニシアチブになる。
 ●SPEC ギヤ比=8.2 最大ドラッグ力=5.0kg 自重=395g 糸巻量PE(タナトル)=0.8号-270m、1号-220m、1.5号-150m 最大巻上長=66cm/ハンドル1回転 ヘアリング数=BB9/ローラー1ハンドル長=200DH=55mm、200=60mm シマノ巻上力=27kg 実用巻上持久力=3kg 最大巻上速度195m/分



▲フォースマスター200とXシートエクストリームガングリップの組み合わせはバイブレーション釣法にも抜群の相性のよさ



▶軽量・コンパクトなボディに充実の機能。電動と手巻きの「いいとこ取り」のフォースマスター200



▶タッチドライブ、スピードクラッチともに親指で操作できる

すると穂先がコン！と弾かれる。即合せて掛からなければロングステイとジャークで駆け引きし、1本、また1本とタチウオを釣り上げていく。そして活性が高い群れに当たった流しでは、断続的に上下動させている穂先が「コン！」と弾かれ「パシッ」と合わせが決まる「コンパシ」で続けざまに掛け、同船者の目を奪つ。

「郷に入っては郷に従う心構えで来たのですが、結果としてバイブレーション釣法の新たな可能性を見つけることになりました。この意外性も、タチウオ釣りの面白さですね」

船着き場に戻り地元の方々にバイブレーション釣法と「コンパシ」について説明する富所さん。次に訪れたとき、熊本のタチウオ釣りの誘いのトレンドが変化しているのか、ちょっと楽しみみである。

変速バイブレーションで1本目。この後は最大120センチを含め順調。バイブレーションは良型が多いのでは、と思わせる釣れ具合だった



ドラゴン級も視野に入れたこの日、フォースマスター200の中間速設定は21

フォースマスター200の速度6。微速巻きでタナを探ってみる



大きめの「リサーチバイブレーション」と食わせる「省エネバイブレーション」のコンビネーションがヒットパターンとなった

▶水深100～150メートル、すり鉢状の壁を狙っていく



遊漁船と一本釣りの職漁船が代わる代わる潮上りしていく

水深120メートルから伝わるアタリを見極める



▲▼熊本ではフォースマスター600を愛用している釣り人が多い



「ウッキー船長」こと山下一美さんと

有明海と聞くと干潟を連想するかもしれないが岸から150メートル以上急に落ち込む海底地形を有するタチウオの好漁場



アタリを察知してから15秒以上のロングステイを幾度か繰り返して、熊本初のタチウオを手にする。「きました！結構、いい型ですよ」続いてバイブレーションでキャッチ。とはいえず、東京湾でのバイブレーションとは少し違うように見える。「バイブレーションは狭い範囲を細かく誘うテクニクですが、実は今、リサーチにも向いているのではないかと思いい、色いろ変えているんです」

富所さんはテンヤを着底させると、まずは1シャクリあたりハンドル1/4回転で誘い上げる。「まずは大きめのバイブレーションで手早くリサーチします」

このときも穂先を跳ね上げたら必ず一瞬、糸フケを作るように心がける。「このリサーチバイブレーションでアタリを感じたり、潮の抵抗が軽くなる所がきたら、細かいバイブレーションに変えます」

ここからは「省エネバイブレーション」。鋭敏な先調子竿、サーベルマスター1XR91H170の穂先を10センチほど跳ね上げながら、1シャクリあたりハンドル1/24回転の小刻みなアクションで狭い範囲を濃密に探る。

© Presented by SHIMANO

【取材協力】熊本県上天草・フィッシャリーズ フィッシャリーズ